

平成26年度「水環境文化賞」を受賞して

細越ホタルの里の会 会長 澤谷 一 男

はじめに

かつて当地では、集落の後背地にあたる標高100m前後の山林の雪解け湧水を利用して水田を耕作していました。その水源のほとんどに今でも祠や社があることから、水がどれほど貴重だったか伺えます。

そして、その湧水路や山あい水田の用水路にゲンジホタルが生息しています。

しかし、農業事情や住環境の変化にともないホタルの生息地が年々少なくなっていくため、1998（H10）年の夏に“細越のホタルは細越で守ろう”を合図とし、1993（H5）年設立の組織を再編した上で本格的な保護活動に取り組むことになりました。

とは言え、当時は参考とする資料や図書も見当らず、生息地の保全や幼虫の飼育方法まですべて推測で進めるよりありませんでした。

その意味において、素人の私たちの実績を当学会様から認めていただき、荣誉ある「日本水環境文化賞」を受賞できましたことは、このうえない喜びであり地域を代表し心からお礼を申し上げます。

また、これまで苦労されご高齢のため身を引かれた先輩諸氏に対し、心から敬意を表したいと思います。

取り組みの経過

当地域のホタルの里は、1991（H3）年の青森市教育委員会による調査でゲンジやヘイケホタルが生息するだけでなく、多様な生態系を有する貴重な里山ということになりましたが、上流の山林には多量の粗大ゴミが捨てられ、いずれはホタルの里にも汚染水が及ぶという危機的状態にありました。

そこで、周辺農業者が中心となり環境整備に取り組むこととし、青森市にも協力をお願いしましたところ、1992（H4）年には上流の沼や道路そして観察台までも整備していただきました。

これを機会とし、1993（H5）年から保護活動を続けておりますが、ホタルを見たいという市民の声に応えるため、1999（H11）年からは地域住民総員による第一回「ホタルまつり」を開催しております。この「まつり」では、見学者が年々増え数百人から数千人になったため、駐車場探しやより広い案内拠点への移動さらには見学路の拡大、看板の設置、スタッフの増員など様々な対応を求められることになりましたが、その都度、地域住民をはじめ地元小学校や隣接する民間の自動車整備工場など多方面にわたる方々のご協力により、昨年まで16年間継続しております。

取り組み内容

活動としては、年4回の草刈り・泥上げを基本に、ゲンジホタルの繁殖・放流や田んぼと畑の学校を通じた子どもたちへの自然体験の場を提供しております。

また、近年は里山全体の機能を改善するため、山林の間伐や植樹にも取り組んでいます。

◎ホタル生息環境の保護活動

- ①水路・畦畔の草刈り・泥上げ
- ②ゲンジホタルの繁殖
- ③耕作放棄地の管理

◎子どもたちへの自然体験の場の提供

- ①田んぼの学校での田植え・稲刈り
- ②畑の学校での作付け・収穫
- ③ホタルの幼虫とカワニナの放流

◎里山の再生・景観形成活動

- ①ホタルの里の花の植え付け
- ②町有林での観察道の整備と植樹

◎ホタルまつりの開催活動

- ①ホタル見学路の案内・誘導
- ②地場産品などの販売
- ③周辺小中学校等によるクラブ発表会
- ④ホタルを題とする俳句大会

おわりに

これまでの20年という時は、自然環境だけでなく農村地域にも大きな変化をもたらしていますが、はるか縄文から続いているホタルという小さな命を守るため、「日本水環境文化賞」の受賞を契機に思いを新たにしまして更なる活動に取り組んでまいります。

第49回日本水環境学会年会関係者の皆様、このたびは大変ありがとうございました。



写真 細越ホタルの里の全景